

奈良県立万葉文化館蔵

「伝江南院龍霄筆切」解題

井上 さやか

【書誌情報】

(管理番号…イ7)

〔書写年代〕 室町時代頃

〔体裁〕 軸装

〔行数〕 三行

〔寸法〕 本紙 縦二三・九cm 横五・五cm

軸全長 縦二三三・〇cm 横二九・一cm

〔字高〕 二一・〇cm

〔料紙〕 楮紙

〔収録歌〕 『万葉集』卷十二・二九三一番歌、卷十三・三三二

三番歌、卷四・五四二番歌（訓読のみ）

〔その他〕 裏書「江南院龍霄」、古筆了仲極札「江南院龍霄」、

平安堂主人極札「青蓮院尊應准后門弟」、「本願寺」

透かし（元台紙）

【解説】

「伝江南院龍霄筆切」は、江南院龍霄（甘露寺氏長・一四四三年生〜一五〇九年没^①）の筆による万葉集類聚本の断簡とみられる。書写伝来は不明だが、軸装前の台紙に「本願寺」の透かしが入っていたことから、一時期は同寺関係者の手元にあった可能性が考えられる。漢字本文はなく、漢字仮名混じりの訓のみで万葉歌が記されており、次点と新点とが混交してみられる。大阪府立大学附属図書館蔵『類聚万葉拔書』の訓及び部立てとの類似点が多い^②。

なお、料紙や寸法等から、善光寺本坊大勧進宝物館蔵「大手鑑」（二曲一双屏風）に貼られた「みさこゐる…」（『万葉集』卷十一・二七三九番歌）と「濱きよく…」（同卷六・一〇六七番歌）の二首を記した江南院龍霄筆切のツレと考えられる^③。

注

① 今泉淑夫「江南院龍霄」『東語西話 室町文化寸描』吉川弘文館、一九九四年

② 拙稿（分担執筆）「万葉文化館蔵「伝江南院龍霄筆切」について」『万葉古代学研究所年報』第一〇号、二〇二二年三月

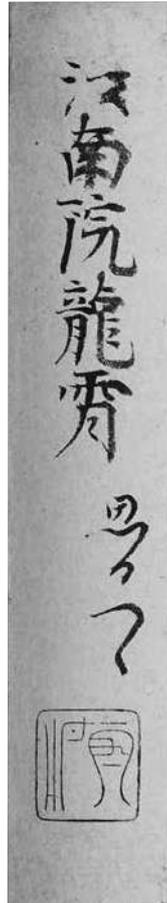
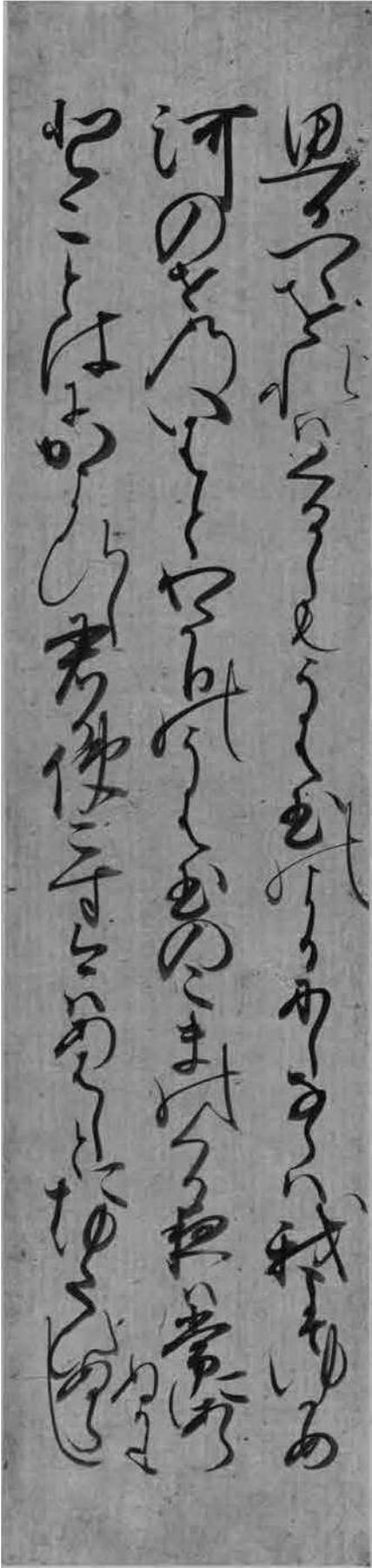
③ 小倉久美子（分担執筆）「万葉文化館蔵「伝江南院龍霄筆切」について」『万葉古代学研究所年報』第一〇号、二〇二二年三月

【翻刻】

思ひつゝをれはくるしもうは玉のよるにしならは我こそゆかめ
河のせのいはとわたりのうは玉のこまのくる夜は常にあら

ぬかも

とこととはにかよひし君か使こす今はあはしとたゆたひぬらし



古筆了仲極札



台紙（透過光）

「伝江南院龍霄筆切」
奈良県立万葉文化館蔵（本紙・原寸）